

昨今のスペースデブリの増加により、長期的には宇宙の安定的な利用に支障が生じる懸念があるため、国際的な議論や我が国における対応状況等を踏まえ、関係府省等が密に連携し、効果的な取組を促進することを目的に、開催。宇宙政策担当大臣が座長。本年2月に続き、今回が4回目の開催。

第4回 (1)日時 : 令和2年11月10日(火)16:00 ~ 16:40

(2)場所 : 合同庁舎4号館12階 共用1208特別会議室

(3)出席者 : 内閣府 井上 信治 大臣 外務省 宇都 隆史 副大臣
 三ツ林 裕巳 副大臣 文部科学省 高橋 ひなこ 副大臣
 吉川 赳 大臣政務官 経済産業省 江島 潔 副大臣
 環境省 小泉 進次郎 大臣 防衛省 中山 泰秀 副大臣
 笹川 博義 副大臣 国土交通省 朝日 健太郎 大臣政務官
 総務省 新谷 正義 副大臣 JAXA 山川 宏 理事長

- (4)結果概要 :
- ・ 内閣府より、スペースデブリに関する最近の状況変化を説明。
 - ・ JAXA、アストロスケール社及びALE社より、最近の主な取組を説明。
 - ・ 環境省より、スペースデブリ問題に関する取組について、環境省内検討チームにおける検討結果(中間とりまとめ)を説明。
 - ・ 内閣府より、今後タスクフォースの役割を軌道利用のあり方を含める形に変更すること、①軌道利用に関する標準等の形成に向けた取組、②デブリ低減に関する我が国の主体的・先行的取組、を柱とする「今後の取組方針」が諮られ、それぞれ了承された。



<第4回タスクフォース大臣会合の様子>



<冒頭発言をする井上大臣>

本タスクフォースの今後の取組方針を以下のとおり定める。

1. 軌道利用に関する標準等の形成に向けた取組

宇宙交通管理のうち、軌道の設計、運用、退去その他の軌道利用のあり方について、我が国として国際的な標準又は規範の形成を追求していくべき事項及びその内容並びにその形成を主導していくための戦略をワーキンググループを中心に検討し、令和3年度中を目処として、中長期的な取組方針を策定することを目指す。

2. デブリ低減に関する我が国の主体的・先行的取組

スペースデブリに関し、関係省庁等は以下の措置に積極的に取り組む。

- (1) 政府衛星が運用終了後にデブリ化することを抑制するため、低軌道衛星について、軌道を離脱させるか、軌道に残存すると予想される期間が25年以内である軌道に移動させることを定めた国際ルールの遵守に加え、可能な限り、運用終了後に衛星を制御して、大気圏に突入するまでの期間を短縮させる。
- (2) 今後打上げを行う政府衛星に対して、技術の開発状況等に応じて、デブリ化等をより確実に抑制するための対策を、あらかじめ最大限講じる。
- (3) デブリ除去の実現に向けて、JAXAが令和4年度に計画している商業デブリ除去関連技術実証の実施までに、前記1の検討の一環として、軌道上サービスを行うに当たって共通に従うべき我が国としてのルールを検討する。